

眼鏡の聖地「鯖江」発！ こだわり素材と眼鏡製造技術で生み出す オリジナルアクセサリ、小物雑貨等のブランド化

紹介事例の概要

- 事業者名 株式会社キッソ (福井県鯖江市)
- 認定区分 地域資源活用
- 認定事業名 鯖江の眼鏡製造技術を活用した新デザインによるアクセサリ、小物雑貨等の開発・製造・販売
- 認定日 平成29年2月3日

独立行政法人中小企業基盤整備機構
経営支援部 ハンズオン支援統括室

大穂 裕嘉

眼鏡資材商社が アクセサリ事業に挑戦

国産眼鏡フレームの全国シェア95%を占める“めがねのまち”鯖江に所在する株式会社キッソ (以下、「KISSO」) は、1995年、現代表取締役の吉川精一氏 (以下、「吉川社長」) の実父・松郎氏が50歳の時に独立し、眼鏡用材料の商社として設立した。当時大学生だった吉川社長は、福井の眼鏡商社で商品企画やデザインの経験を積んだ後、KISSO に入社した。



吉川精一 代表取締役

吉川社長も参加している福井県眼鏡工業組合青年部会では、2010年2月に鯖江商工会議所の創立50周年記念事業として東京インターナショナル・ギフト・ショーに出展する話が持ち上がり、各社の高い技術力を生かして新事業分野に

チャレンジし、眼鏡以外の商品を出品することとなった。「ギフト組」と命名されたこの活動は、2009年4月から約1年かけ、外部講師を招いてマーケティングを基礎から学びながらメンバー各社が新商品の企画・開発を進めた。KISSO は、主要取扱品のセルロースアセテート (眼鏡フレーム用プラスチック素材) と眼鏡製造技術を生かしたアクセサリの開発にチャレンジした。前年2008年9月のリーマン・ショックと、その後の景気低迷は眼鏡業界にも多大な影響を与え、KISSO も一時は注文がなくなる苦境を経験していたが、そのような状況だからこそ新事業分野進出への真摯な取組みとなった。「ギフト組」の活動は、現在は福井県中小企業団体中央会の熱心なサポートを受けながら継続している。

KISSO が作り出すアクセサリの最大の魅力は、身につけるだけで心がわくわくする色鮮やかで複雑なカラーデザインである。これは、本業の眼鏡資材商社として培った良質素材の調達力と独自の貼り合わせ技術によって生み出されている。KISSO で使用するセルロースアセテートはイタリアの老舗・マツケリー社製で、同社はイタリア職人独特の色彩感覚と発色の鮮

やかさで有名な世界トップブランドである。さらに、KISSO では複数のアセテートシートを圧着加工で貼り合わせ、この世に一つしかない素材を作り出すことができる。ギフト・ショーへの出展を足がかりに、眼鏡小売店や百貨店の催事等を主な販路として実績を積み上げた。また、CEMENT PRODUCE DESIGN（大阪市西区）とのコラボレーションブランド「sabae」で商品開発した「鯖江耳かき」が2013年のグッドデザイン賞を受賞し、知名度を高めた。



1点ずつ形や色柄が異なる KISSO のリング

自社ブランドの確立に向けて

KISSO は、順調に伸びてきたアクセサリ事業をより一層磐石なものとするため、中小機構北陸本部の専門家のアドバイスを受けながら新たな事業計画を策定し、2017年2月に地域資源活用事業の認定を受けた。これまでの商品開発は、素材と技術を生かして作れるものは何でも作るという発想が先行し、女性向けアクセサリだけでなく、カードケースやカフス等の男性向けアイテム、耳かきや靴べら等の雑貨等、さまざまな商品カテゴリーを作ってきた。その結果、企業イメージが分散し、統一感のあるブランド展開ができていないことが課題であった。そこで、本事業計画では、コンサルティング会社やデザイナーの協力を受け、新たにコーポレートブランド及びプロダクトブランドのコンセプトを策定し、それに基づいた商品デザイン、ロゴ、パッケージ、PR戦略等の統一的な展開を図ることで、より広範な客層から受け入れられる自社ブランドの構築を目指している。具体的な事業展開では、国内だけでなく、ヨーロッ

パやアメリカ等への海外販路開拓も視野に入れている。また、将来的には、本社にショールーム兼直売店舗を併設したり、自社工房での職人の作業風景を外から見える形にするといった構想も持っている。



磨き加工する職人

メガネストリートの眼鏡装飾

「つなぐ」をテーマに、ものづくりの街・鯖江で不可欠な存在へ

KISSO は、地域連携や地元活性化の取組みにも積極的に関わっている。「ギフト組」をはじめ福井県眼鏡工業組合の活動はもちろん、産地鯖江のブランド確立を目指す若手経営者の勉強会組織S BW (Sabae Brand Working Group) への参画、デザインやマーケティングを学ぶ大学生との共同開発等も実施している。また、ディレクターの熊本雄馬氏を中心に、福井県の7つの伝統工芸品の若手職人グループ「福井7人の工芸サムライ」や、鯖江市の地域活性化プランコンテストで表彰された「メガネーランド構想」も推進している。構想のテーマは「鯖江をメガネのディズニーランドのようにしたい！」であり、これに賛同した鯖江市は、JR鯖江駅から「めがねミュージアム」までの約900mの道路にさまざまな眼鏡型の装飾を設置したメガネストリートを実現した。

認定後、コンサルティング会社との議論を経て、新たなコーポレートブランドのコンセプトも固まりつつある。KISSO ならではの価値として、「つなぐ」、「わくわくする」、「新しい」、「他にはない」といった言葉がキーワードになりそうだ。「鯖江を盛り上げ、日本の眼鏡業界を引っ張っていきたい」と熱く語る吉川社長率いる KISSO から、これからも目が離せない。